

2023 年政治経済学・経済史学会春季学術大会

春季総合研究会のご案内

資本主義論の現在

問題提起

野原 慎 司 (東京大学)

報 告

1. 資本主義概念なき市場理論の現在—制度の経済学の視点から 瀧澤 弘 和 (中央大学)
2. 自律分散型市場経済—資本主義でない市場経済は可能か? 西 部 忠 (専修大学)
3. 世界システム論における資本主義の位相の変容—実体, 言説, 内部観測
山下 範 久 (立命館大学)

コメント

1. 現代歴史学の観点から 長谷川 貴 彦 (北海道大学)
2. マルクス経済学原理論の観点から 江 原 慶 (東京工業大学)

司 会

出雲 雅 志 (神奈川大学), 野原 慎 司 (東京大学)

趣 旨

近年、資本主義論が広く行われるようになってきた。多種多様なバックグラウンドをもつ者が資本主義を論じ始めている。その中には、注目に値する重要な研究上の貢献も含まれる。ところが、経済学上・経済理論上で資本主義論をどう位置付けるかの検討は、まだまだ十分ではない。

たしかに、いわゆる非主流派経済学者の多くが以前から資本主義を論じてきた。カール・マルクス自身は「資本主義」の語をあまり用いなかったものであり、それを学術的な意味で用い始めたのはヴェルナー・ゾンバルトであったにせよ、マルクス主義者は資本主義とは何か、資本主義の構造は何かを明らかにしようとしてきた。経済史家も資本主義を論じてきた。古くは、山田盛太郎をはじめとする研究者が参加し、講座派と労農派に分かれて論争された日本資本主義論争以来、日本資本主義の構造を問題にする中で、資本主義のあり方も課題とされた。また、言うまでもなく、西欧の資本主義の歴史的発展構造を明らかにしようとし、日本の経済史研究に甚大な影響を与えたのは大塚久雄であった。

ところが、いわゆる主流派経済学者は、近年に至るまで、資本主義という言葉で現代経済を定義することにためらいがちであった。それらの人々はむしろ、市場経済という言葉の方を好んで使ってきた。しかし、近年では、主流派経済学者でも、資本主義の分析がなされるようになってきている。にもかかわらず、主流派経済学が前提にする経済理論と資本主義の接合性は必ずしも高くない。これまで、市場を中心に分析がなされ、市場とは異なるフェーズを持つ資本主義の分析は十分になされてこなかったからである。

むしろ、市場と資本主義の違いについては多様な理解があり得るが、例えば、フェルナン・ブローデルは、市場を交換に基づく活動とし、それとは異なるものとしての資本主義を、経済活動の支配や略奪を含む動的な活動と考えた。後者としての資本主義には、貨幣、金融、資本の運動などが含まれる。いずれにせよ、資本主義をどう捉えるかは、依然として研究課題であり、その解明にあたっては多種多様なアプローチが有用である。

そこで、本研究会では、「資本主義論」の現在と題して、多様な専門の研究者に、それぞれのバック

グラウンドに基づき、研究報告を行なっていただく。これに対して、経済史・歴史学の立場でどう応答しうるのかをコメンテーターにはコメントしていただくことを計画している。